

住民主体のまちづくり

No.24 2015. 11

編集発行：車尾まちづくり推進会議 事務局

■ 子育てカーニバル in くずも

去る10月8日（木）午前10時半から子育て支援の取り組みとして、車尾公民館で「子育てカーニバル in くずも」が開催されました。これは乳幼児親子のお楽しみイベントで地区青少年育成会の主催で地区民生児童委員協議会やおはなしグループ“ぐりとぐら”など関係諸団体10数名の共催で企画運営された。



参加者は親子15組で以下の内容に楽しんだり喜んだりであったという間の1時間でした。

- ・絵本についてのお話し、読み聞かせ
- ・わらべうた

■ 人口減少社会において

地域を共に守り創る

去る10月6日（火）午後1時から米子コンベンションセンターで、「鳥取県西部地震15年フォーラム」が開催されました。

15年前の10月6日。穏やかな昼下がり、私たちのふるさとは、突然、大地震に襲われました。その後も東日本大震災が発生するなど大規模な災害が現実なものとなっています。また、人口の減少にも警鐘が鳴らされています。

このフォーラムで、宮城県知事・常葉大学教授・鳥取県知事・日野町民・智頭町民の5名によるパネルディスカッションが行われ、体験に基づく「地域を共に守り創る」提言や考えを聞きました。

主なものを紹介します。

- 人口の減少が進行すると、
 - ・財政規模や行政組織の縮小を生み、行政の防災態勢が減退します。
 - ・防災の担い手や消防団員のなり手が減り、家庭内でも地域内でも被災者が増大する。
 - ・高齢者の見守りなど「密着型のセーフティネット」が崩壊し、災害に弱くなる。
 - ・高齢化が進むと、災害への抵抗力の無い人の比率が増え、災害に弱くなる。
 - ・風呂での溺死が増えているが、小さな世帯で発生し、高齢者が犠牲になっている。
- 人口が減少しても活力のある地域にする
 - ・東日本大震災では、小規模ゆえに迅速な復興を成し遂げた集落が少なからず存在する。
 - ・交流人口を増やす。観光資源を活かす。
 - ・祭りなどでは、転出した人も一緒に行く。
- いのちを守る役割分担

	自助	共助	公助
被害の抑止	◎		
被害の軽減		◎	
被害の対応		◎	○

（常葉大学教授より）

- 災害に強い共同体意識を持って生活を営む地域
 - ・（自助：共助：公助）＝（7：2：1）から（5：無限：5）
 - ・行政や居住者だけでなく学校、事業所、社会福祉協議会、民生児童委員協議会、消防団などの力を足し合わせる「みんなが消防団」を結成する。

以上で紹介を終わります。

私たち車尾地区の住民は、「地域を共に守り創る」という「絆」意識を高め、「支え愛」によって、元気で災害にも強い共同体意識を持って暮らす地域の実現を目指していきましょう。